



大阪プロバスクラブ

会報 第398号

2024年11月13日発行

Monthly Bulletin of
The Probus Club of Osaka

例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111
 例会日：2022年7月より毎月第2水曜日 12時～14時
 ○創立 2001（平成13）年7月9日創立記念式 7月16日
 ○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ
 ○友好クラブ：箕面ロータリークラブ
 ○会長：山下恵司 ○幹事：川端崇且 Tel：090-2702-7212
 ○事務局：（幹事宅）〒562-0044 箕面市半町 2-5-23
 ○会報担当：西宮富夫 pxi06603@nifty.com
 ○大阪プロバスクラブ会報：<http://osakapurob.exblog.jp/>
 ○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>
 （R6年8月の第11回総会で決定された新体制）
 会長 馬場康博、幹事長 中田雅昭、会計 佐々木浩一
 ○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版：
<http://probuscent.exblog.jp/>

R6年10月上旬～R6年11月上旬までの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報 231号	9月2日社会貢献賞贈呈&スピーチ例会、全日本プロバス協議会報告、他
東京八王子	プロバスだより第347号	卓話「八王子の狛犬達」増田由明元会員、「私の健康管理」橋本鋼二、「60」あれこれ（情報：河合和郎）、ハッピーコイン、他
神戸北	6年11月例会案内	10月3日例会：野外研修「神戸須磨シーワールド」参加8名、他
赤穂	会報 48号	4月定期総会（新年度役員等）、5月例会年間計画立案、7月例会卓話「赤穂の塩づくりについて」、9月例会「R6年能登半島地震災害救助」、他
大阪	会報 第397号	卓話「大阪のこれからを考える：①大阪の経高政低が招いた現状、②関西の歴史・魅力は内外に通じる」畑山博史氏（時事ジャーナリスト）、他
北九州	つながり第219号 第220号	219号：8月例会報告、全日本プロバス協議会報告（総会は全国36クラブのうち24クラブ（委任状含む）、94名参加、総会后、五所川原大会（懇親会&立佞武多見学等）、他 220号：9月例会卓話「グランドシニアのいきいき対策「健康管理」（吉田信夫会員、古賀康子会員）、他

今回 第399回 通常例会 2024年11月13日（水）
 会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

●大阪プロバスの歌（作詞：渡辺孟 補詩：田村徳郎）

- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
- ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
- ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い 明日も愉快地に生き抜こう

●『里の秋』（作曲：斎藤信夫、作曲：海沼実）

しずかなしずかな 里の秋
 おせどに木の葉の 落ちる夜は
 ああ かあさんと ただ二人
 栗の実 にてます いろりばた

前回 第398回 移動例会 2024年10月9日（水）
 会場 淀屋橋 odona「アトリエハマダ」12：00～14：00

◎移動例会

○入会式：9月理事会で入会承認された菊川哲子会員の入会式が行われた。

●食事タイム：淀屋橋 odona「アトリエハマダ」

料理は食べやすいサイズで提供され、工夫も多く、新しい感じの中華料理&店舗で、大変よかった。



(Google Map より作成)

○乾杯・会長挨拶：山下恵司会長

（ビールにて乾杯、その後注文で店側より紹興酒・上海老酒石庫門12年、白ワインが提供された。ワインのみ紹介する。）

ワイン名：ワインアートエステート イディスマ ドリオス 2021 Wine Art Estate Idisma Drios Assyrtiko 2021



ワインラベル

生産地：ドラマ（Wikipediaより引用）

（以下、文引用元：イタリアワイン専門店 tuscanly 記事「ワインアートエステート」より抜粋引用）

生産者：ワイン・アート・エステートは、注目のワイン産地ドラマに本拠地を置くワイナリーです。1993年にイヤニス・パパドポウロスが家族所有の畑を復活させ、友人と共に立ち上げました。自社畑ではボルドーブレンドを含め、多くの国際品種と共に代表的な土着品種が植えられています。

生産地：ギリシャ ドラマ

畑：マイクロチョリとカリ・ヴリシ村の畑。標高250m。南向き。涼しい北風の影響を受けるエリア。昼夜の寒暖差の大きい内陸性気候。「イディスマ・ドリオス」は古代ギリシャ語で樽由来の甘味を示す。アシルティコ特有の爽やかさも上手に引き出された複雑で長い余韻も印象的なワイン。

◎近況報告：「北アルプスト山行（さんこう）記」 笠松幸一会員

（会報担当より：笠松幸一会員から内容豊富な6日間の山歩き原稿をいただきました。しかしページの関係で原稿の相当部分を省略せざるを得ず、いただいた提供写真も一部のみの使用となりました。また原稿に沿ってロングトレッキングルートの略図を作成・挿入させていただきました。以上の点、ご容赦願います。）

奈良ハイキングクラブに入会して2年半。（中略）今回の北アルプスを斜めに横断するトレッキングはまだまだ山の素人である僕にとってはかなり背伸びをした挑戦的な計画であり、かなり危険な挑戦であったと思う。



トレッキングルート略図（地理院地図より作成）

★9月28日：上高地へ

23時10分名古屋発⇒翌日早朝5時30分上高地着の深夜バス、運よく隣の席があいていたこともあり少し寝ることができた。

★9月29日：上高地⇒槍沢ロッジへ

新穂高ロープウェイ駅経由定刻通り5時半に**上高地バスターミナル**に到着。計画通り6時に歩き始める。がけ崩れのため岳沢湿原の自然探勝路を歩く。天気は曇り。河童橋からは奥穂高岳をはじめとする穂高連峰の雄姿を仰ぎ見ることができるのだが、今朝はさっぱりだ。湿原を流れる梓川のせせらぎがなんとも気持ちがいい。

明神橋を渡り休憩。（中略）明神からは奥上高地探勝路を歩く。梓川沿いを緩やかな登り路を歩く。徳沢以降は登山目的の人達ばかりだが、外国からやってこられたと思われる人も沢山おられる。横尾の休憩場所は座る場所もないほどににぎわっている。（中略）

10時20分に横尾山荘前はやる気持ちを抑えてユックリあるくことを心掛ける。（と言えバカッコいいが、ユックリしか歩けないといったほうがいいのかも。）少し傾斜がきつくなった梓川本流沿いの路をストックの助けを借りて歩く。

（中略）**11時45分に今日の宿「槍沢ロッジ」**に到着。（16.1キロ・累積上り596m・累積下り273m・ネット歩行時間4時間46分）

★9月30日：槍沢ロッジ⇒槍ヶ岳山荘：槍ヶ岳登頂

4時半に起床。昨晚は7時に就寝。バスの中でよく寝ることができなかったこともあったのか、トイレにもいかずに9時間寝ていたようだ。計画より少し早く5時58分に小屋を出る。ロッジのテント場であるババ平の手前から小雨模様になる。テント場の小屋でザックカバー・防水ジャケットを着用。（中略）大曲を過ぎると一挙に傾斜がきつくなる。息が上がらないようにユックリ・ユックリと登る。途中追い越したお嬢さんには「ユックリ歩く方が楽しいよ。」と、まるで自分を励ます言葉をかけている。**天狗原分岐**を過ぎ、坊主の岩小屋へ。遠くに殺生小屋が見えてくるが、路の傾斜はさらにきつくなりまた岩ゴロゴロの岩道に変わっていく。さすがに槍ヶ岳へのアプローチだ。決して甘くない。キツイ。ふと見上げると槍の穂先のようなものが見えてくる。先ほど追い越したときに声をかけたお嬢さんが後ろにいたので「槍が見えるよ」と。歩幅を登山靴の長さ30センチほどにして一步一步確実に登る。

槍ヶ岳山荘直下の登りが大変キツイと聞いていたので**殺生ヒュッテから東鎌尾根に出るルート**を選択。（中略）ザックを持たずに歩くことができればバランスもとりやすいのかもしれないが、10キロ程度のザックを背にしてハシゴ・鎖の連続する左右どちらも滑落すれば死につながる狭い痩せた尾根を歩くことになるとは。ハシゴや鎖のように身体を確保できるところは問題ないけれど、何も無いところはさすがに身体が竦む。心も身体も固く竦むとさらに危険が増す。経験して初めてわかることだ。運よく滑落することを免れて**10時40分槍ヶ岳山荘**へ無事到着。体力勝負の登りのはずが、最後は命をかけた尾根歩きになってしまった。

槍ヶ岳山荘ではテレビ撮影が行われている。誰がいるのかなと目を凝らすと2018年平昌冬季五輪女子500mスピードスケートで**金メダリスト小平奈緒**さんが立っておられた。ごく普通の女の子なのだが、さすがに下半身はドシッとしている。槍ヶ岳の登頂を見ていた人が「スイスイと登っていたよ。」とのこと。「一芸に秀でた人は」ということなのだろうか。



（西鎌尾根から槍ヶ岳）（笠松会員提供写真）

山荘の前で少し休憩し槍ヶ岳山頂へのアプローチを開始。重いザックはデポ。スマホと500ミリの水筒をナップザックに入れて出発。鎖・梯子だけでなくいたるところに足場になるネジが埋め込まれており岩登りについて

は全く素人の僕も「命の危険」を感じることなく **30分ほどで登頂**することができた。

槍ヶ岳の頂上はさすがに槍の穂先と言われる外見から想像されるように狭い。僕たちの登頂は何の渋滞もなくスムーズに登ることができたけれども、ピークシーズンにご来光を拝む登頂はハシゴ・鎖の渋滞と頂上の狭さから3時間以上かかるという噂もうなずくことができる。頂上からの眺望は残念ながら雲の合間に西鎌尾根の方向を少し見ることができた程度で残念なものだった。槍ヶ岳は3180mと日本で5番目の高さからの眺望だけに、3190mの奥穂高岳方向（真南）をのぞけばほぼ360度の眺望を楽しむことができたはずだが「山は晴れば、曇るし、雨も降る」と「登頂できたこと」に感謝して頂上をあとにする。下りも上りと同様にハシゴ・鎖などの補助と足場が助けてくれる。**無事槍ヶ岳山荘に到着**。山行前半のハイライトを無事終了。

（距離6.3キロ・累計上り1436m下り169m・ネット歩行時間5時間3分）

★10月1日：槍ヶ岳山荘→三俣山荘

5時前に起床。快晴だ。ご来光を見ることにする。小屋の東側にあるテラスに松山から来られたという71歳の方と一緒にご来光を待つ。殺生ヒュッテのある大カールのむこうには常念岳・蝶ヶ岳の連峰、さらに南には八ヶ岳、なんと富士山、南アルプスと雲海の上に絶景が広がる。至高の時間だ。ご来光は「ダイヤモンド光が輝く」にはならなかったが大満足。最後に西鎌尾根の下山口から双六岳・鷲羽岳方向を覗いてみる。朝日に照らされてオレンジ色に輝く山並みが素晴らしい。

6時15分に山荘を出発。西鎌尾根の強烈な下りに挑む。鎌尾根というだけに昨日「死ぬかと思った」東鎌尾根を想像していたが、東鎌尾根のような「馬の背」ではなく広い尾根道。とはいえガレ場・浮石の下り。山脚に100%体重を乗せて次の一步を踏み出すという基本を心に刻みながら歩く。

急坂も千丈乗越までで、気持ちのいい尾根歩きに顔を変え。百名山・笠ヶ岳の大きな山容を左手に見ながら歩く。是非ともこの山にも挑戦したいという気持ちがムラムラと湧き上がる。来年の秋は鏡平から笠ヶ岳の紅葉を楽しむのもいい。（中略）朝日で**槍ヶ岳の影**が笠が岳・抜戸岳に映っている。これもなかなか見ることのできない景色かもしれない。



100名山・笠ヶ岳（槍の穂先の影と）（笠松会員提供写真）

左俣岳（2674m）さらに縦沢岳（2755m）の急坂を登り・下りに四苦八苦すると**双六小屋**だ。新穂高からの登山道と裏銀座・西鎌尾根が交差する要衝にあることから登山

人が集中する場所にあり予約が取れない小屋だ。

11時少し前と少し早い**昼食**にする。槍ヶ岳山荘のお弁当「鶏おこわ」を美味しくいただく。（隣でラーメンをすすむ人を見てすごく羨ましく思う。三日目で里が懐かしくなってきたのかも。）

12時少し前に三俣小屋に向かって**出発**。双六岳の裾野を少し登ると稜線・中道・巻道の分岐点に出る（どの道もゴールは三俣小屋）。計画通り一番楽と思われる巻道を進む。（中略）アップダウンが続く巻道を歩いたあとで、三俣蓮華岳への上りは想像以上にきつかったが頂上からの眺望は抜群だ。（中略）絶景に大満足し、ピストンで巻道へ戻るとすぐに三俣山荘だ。**2時40分三俣山荘到着**。大満足の日だった。

（歩行距離11.4キロ・累積上り816m下り1352m・ネット歩行時間7時間30分）

三俣山荘の夕食はメインがイノシシ肉のソーセージのシチュー。槍沢ロッジ・槍ヶ岳山荘の夕食も悪くはなかったけれど、三俣山荘の夕食は冷凍食品を温めた感のない真剣に調理したという料理で心が温まった。感謝。

★10月2日：三俣山荘→鷲羽岳→水晶岳→祖父岳→雲ノ平小屋

5時少し前に起床。5時半朝食。黒部五郎・薬師岳など東側に聳える山々のモルゲンロートを見るぞと意気込んでいたが、朝食・トイレでもたつき日の出少しまえのタイミングを逸してしまう。僕が外にでると、幸せそうな顔で戻ってくる若者から「いい写真がとれました。」と。大失敗。

三俣山荘の北すぐに聳え立つのが100名山・鷲羽岳。覆いかぶさってくるくらいの迫力だが、ため息が出るくらいに急坂が迫ってくる。**6時15分に山荘をでて**「気合をいれて」挑む。ガレ場が続く急な斜面を滑らないように慎重に登る。先に急坂に挑んでいる年配の登山人を追い越す。ユックリ・ユックリ登る僕も決してペースが遅いわけでもなさそうだ。振り返ると三俣蓮華岳・双六岳、昨日歩いてきた西鎌尾根から槍ヶ岳が見事だ。絶景に力を貰って気合を入れ直す。**7時半鷲羽岳登頂**。

（中略）鷲羽岳の弟ワリモ岳を超えると雲の平・水晶岳の分岐点「ワリモ北分岐点」。ここから水晶岳北峰まで往復3時間のピストンだ。**9時半に水晶小屋に到着**。9月末に小屋を閉じて撤収の後片付けをしているスタッフと少しお喋りを楽しむ。小さな小屋だが、北アルプスの臍ともいえる場所にある小屋。水晶岳頂上もふくめ、実際にこの場に立たなければ言葉にできない絶景が広がる。



（水晶岳から赤牛岳立山 東谷に黒四ダムと黒部湖鹿島槍）（笠松会員提供写真）

(中略)「一生に一度快晴の水晶岳(黒岳)を是非訪ねてほしい」と登山を愛する人にはお薦めしたい。水晶小屋から35分、最初は天国のような天空の散歩道・水晶岳南峰・北峰直下はやや厳しい岩登り(3点確保して登れば、岩を楽しむことができるレベル)を思いっきり楽しんで**10時20分に北峰(2986m)に登頂**。

(中略)風はあったが、快晴で暖かったこともあり30分間絶景を楽しむ。北峰から来た道を引き返し**水晶小屋で昼食**。三俣山荘で用意していただいたお弁当を水晶小屋のベランダから望む眺望(水晶岳の西側斜面から立山・黒部湖・黒4ダム・後立山連峰)を采に最高の昼食だ。先ほどとは違うスタッフと少しお喋り。

「ここは北アルプスの中心点。ここから見える眺望は他にはないだろう。」と言われていたがまさにその通りだ。

水晶岳小屋から雲ノ平への分岐(ワリモ北分岐)へ。分岐からは黒部川源流点を左手下に見ながら雲ノ平を目指す。水晶小屋から雲ノ平・雲ノ平山荘を遠望することができ、ワリモ北分岐からはほぼ下りかなと思ったが、雲ノ平までの間には祖父岳(2825m)があり水晶小屋から下りた分をしっかりと登ることになる。決してやさしい道ではなかったが、祖父岳からの眺望も素晴らしい。(中略)祖父岳からの急坂を下ると雲ノ平。遠くに山荘が目に入るが、なかなか山荘にたどり着かない。雲ノ平の自然を守るために縁を歩かされるためだろうか。祖父岳を出てから1時間20分、**2時40分に雲ノ平山荘**へ到着。

(距離10.8キロ・累積上り957m下り949m・ネット歩行時間7時間10分)

雲ノ平山荘は女性に人気の小屋。夕食の名物「石狩鍋」食べ放題は価値がある。夕食後の喫茶は有名らしいが、疲れて寝てしまう。

★10月3日：雲ノ平山荘→薬師沢小屋

5時起床。天気は小雨。昨日の夜は雨だったようだ。

(中略)祖父岳へ立ち寄ることも考えたが、今日の目標は「安全に薬師沢小屋にたどり着き、疲れた身体を休めること。」と決め、木道末端から始まる(クラブの先輩に今回のルートで注意するように言われた唯一のポイント)急な下りに集中することにする。

木道末端までの平坦な路からは時折「槍ヶ岳」「焼岳・乗鞍岳」「黒部五郎岳」を見ることができ、昨日までと違って雲の合間に見え隠れた。黒部源流から見える乗鞍岳は槍ヶ岳のように尖っており、大きな乗鞍岳の印象とは異なる山のようにだ。

運よく急坂の前に雨がやんでくれる。2400mの木道末端から1915mの薬師沢小屋(黒部川)まで約500mを一挙に下る。岩がゴロゴロ転がる坂を慎重に・慎重に下りる。雨はやんでくれたがどの岩(石)も滑りそうで怖い。気持ちで負けているのかもしれないが、「負けてもいいから安全に」だ。下りだが身体が熱い。突然黒部川の音(せせらぎではなく音)が聞こえ始める。もう少しだ。

9時50分薬師沢小屋に到着。早すぎてチェックインできないかもしれないと心配したが、女性スタッフが温かく迎えてくれる。ありがとう。(略)

(距離3.6キロ・累計上り26m下り664m・ネット歩行時間2時間46分)

薬師沢山荘は登山人だけでなくイワナ釣りでも有名な小屋。またマネージャの「やまと けいこさん」でも有名。小屋を閉める直前で食材のストックを使い切るためなのか、夕食も朝食も手作り感一杯の食事。品数・質・

心全てがこもった食事をいただいた。黒部川のすぐそばにあるこの小屋に泊まるのがこの山行の一つの目的だったが、本当に泊まらせてもらって良かった。



(薬師沢小屋前の黒部川)(笠松会員提供写真)

★10月4日：薬師沢小屋→太郎平→折立(山行最終日)

5時に起床。昨日の夜からひっきりなしに雨が降っている。昨日は穏やかに流れていた黒部川も怖いくらいの濁流になっている。音をきいているだけでも怖い。

雨の中を**6時半に出発**。歩き始めてはじめて気が付いたが、黒部川は薬師沢小屋で「奥の廊下」と「薬師沢」の二股に分かれる。僕たちは薬師沢に沿って登る。今日の最高点、太郎平小屋の高度は約2320m。400mの上りを沢沿いに登る。昨日の急坂と比べれば緩やかな登りだが木道・路が昨日からの雨で川になっておりあまり気持ちのいいものではない。

薬師沢小屋を出て2時間20分、**8時50分に太郎平小屋**へ到着。雨はひっきりなしに降り続く。太郎平小屋の電話を借り13時折立出発でタクシーを予約する。(中略)五光岩ベンチ・三角点ベンチを過ぎて有峰湖が見えてくると路は急坂に変わる。太郎坂と言うらしいが昨日の雲ノ平から薬師沢小屋への下りから比べればなんということはない。ただ雨で路が川のようになり靴の中に水が入らないように気を配らなければならない。ひっきりなしに降り続く雨でユックリと座って休憩することもできず黙々と歩くうちに**折立キャンプ地(折立駐車場)に到着**。太郎小屋のスタッフの助言通り3時間の歩きで**12時**になっていた。長かったトレッキングも無事終了。

なんと幸せな6日間を山とともに過ごすことができたのかと、同行してくれたパートナー・きっと黒部源流にいざなってくれたのであろう父・ロングトレッキングの計画に助言をしてくれたハイキングクラブの仲間感謝の気持ちが湧き出てくる。「次はどこをめざそうか。」山は僕を積極的に前に押ししてくれる。やめられないな。

(記2024年10月6日 槍ヶ岳～黒部源流のロングトレッキングを終えて)

(会報担当より：以上写真文とも笠松幸一会員原稿より抜粋転記した。)

次回 第400回 Xmas 例会 2024年12月18日(水)
会場：ホテルモントレ大阪 16:30～19:30